釋迦御一代記圖會

へ13
4232
6

へ13
4292
6

釋迦御一代圖會卷之六

目録

祇園精舍造立毘首竭摩彫木佛
天童扶謁摩拏合掌造木佛圖
世尊說木佛功德
大愛道比丘尼泥洹
流離王屠殺伊沙衰那國人民
流離王蠻伊沙衰那國人民圖
流離王雷死天火焼宮殿
雷神罰流離王臣圖

山本藏

91-1441

釋尊說法大略圖
舍衛國人民屠大魚圖
釋尊遺言并滅繫
如來滅後現五妙神力
諸國王得佛舍利歸國圖

山本彰氏 1991.4

釋迦御一代圖會卷之六

浪華 好古堂野亭考選

祇園精舍造立并給孤獨長者彫木佛

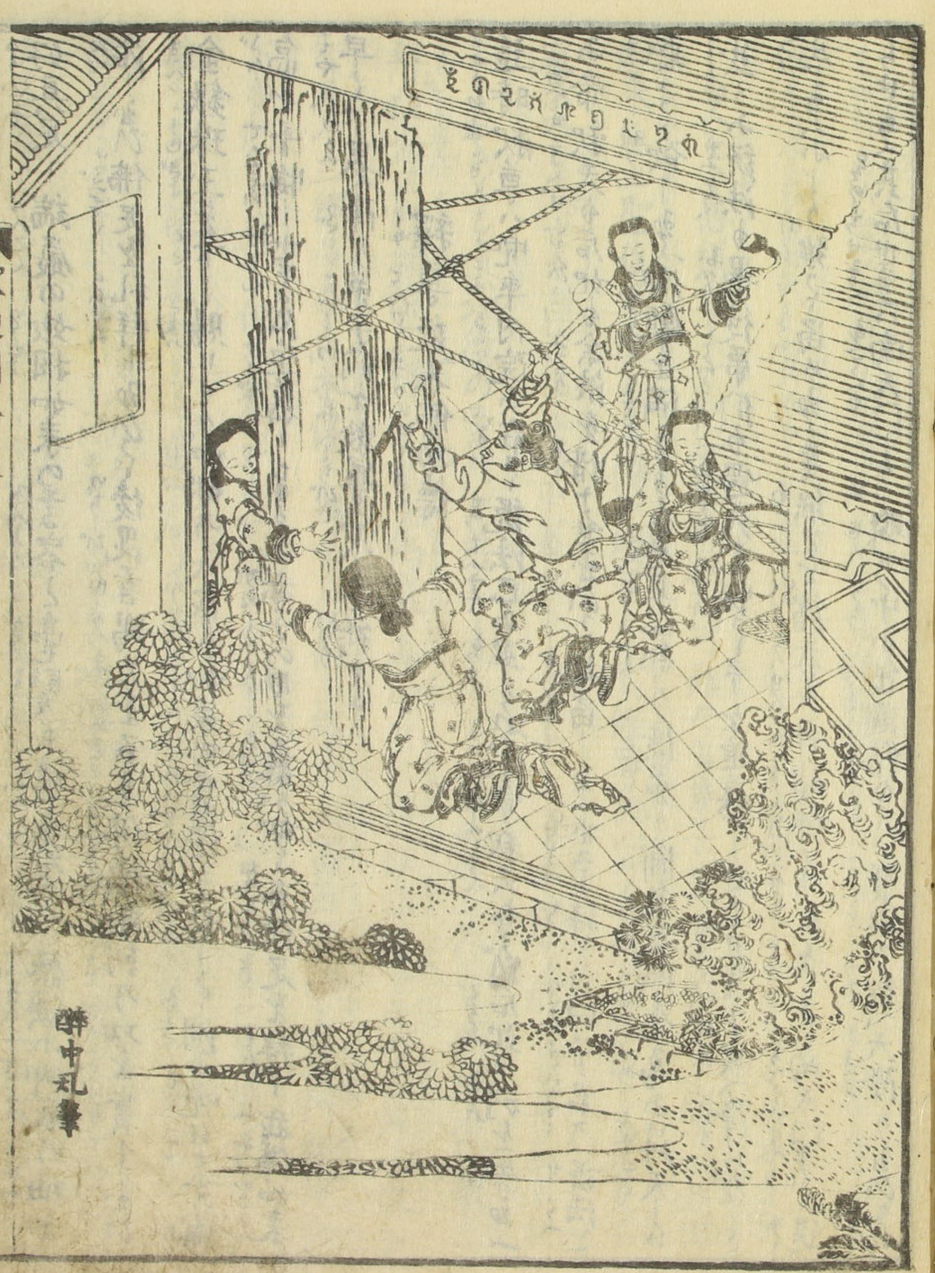
須達長者一度佛顏を拜しより舍衛國の道場を開き世尊を招請し奉る國人の佛教を聽き惡を去善を行ふ數の財寶を拋ち祇陀太子の園を買ひ精舍を造立せんとせしかば六道師是を拒む術無く月盖長者と心を合せ既に精舍を造立せんと巧みしかば須達大に心を困ますが舍利弗の神通を頼み六道師を拉ぎ却て佛弟となり國王卿相すべて佛法の不可思議を信ずるより長者天を歡び地を喜び太子月盖と倶に立退き屬く堂塔を造營を境内方罕里旧本里數六里四門擅特山の法姓臺眞如基壹百八十九所乃發心本覺基法性妙覺基眞如妙法基ムム上五基を表し先五院を建營を祇陀院療病院施藥院安穩院戲樂院と号せり其他四十九院千二百房三千乃面廊瓦を玉を磨き挍挟を擇を堂塔の莊嚴七寶を鏤

錦繡を布くが如し。兜率内院の異なるが如し。
斯くの精舎成就しおわれば、毘陀太子波斯匿王へ、近臣を遣わして精舎已に造営おわりぬと願くは又大王勅使を王舎城へ至るを招請したまえと申さしめたり。
許あり。即ち勅使を王舎城へ至るを招請あるが如し。
祇國の精舎成就せしを歓喜して、二千五百の大衆を従えて彼國へ赴きぬ。
二十里毎に躭摩亭有り。各を設供難しとする所なれども世尊深く其信心を感じ、且つ斯くの如く路上の人民を化度し光明を放ち舎衛國の羅狗耶城近くに到りたまえば、国王の勅使及び須達月蓋迎えまいりて造営せし精舎に入進めたまう。世尊其地形の平博なると堂塔の巍々たるとを見たまいて、即ち感斜たまえば、毘陀太子の園あれども精舎と号し、亦給孤独長者の園と号しひろく其后毘陀院に於いて始めて統法を説きたまえば、波斯匿王ならびに后妃太子緒臣下緒官人國人ことごとく群参して聴き信心渇仰する事浅からず。世尊亦療病院に於いて國中の病者を醫療し給薬院に於いて國人に医薬を給し、独園長者の園に道場あれども給孤独園とも号しひろく其后毘陀院に於いて始めて統法し能く病を療し、猩猩の音人を眼を開かしめ聾者は能く歩き癌は能く偃はり起き其他種々の難病者とくる治せざることなし。貴賤挙て仏法の功徳広大なるを見て出家し仏弟となるもの数をしらず。國王波斯匿王も深く信仰ありて世尊を祇園精舎に在りて統法すること七年に及ぬ。
帝釈天久しく如来の統法を聴聞せしかども未だ兜率内院に招請せざるを思召すに世尊早く知て思召すに辛くの頃日閻浮の衆安逸に耽り動行懈怠なる者多し。是れ心我属を為昇天せしめんと十大弟子ならびに舎利弗を告げたまえば、金光と化して第三十三天兜率内院に昇りたまえば帝釈天ならび后妃御歓喜限りなく種々の供養をなしまいらせ、即ち世尊の為に法華経を説きたまえば、祇園精舎に得六神通の阿羅漢をおくりたまえば如来の昇天を知りたまえば四部の大衆八世尊のうえ恋しがりたまえば何地に往きたまえぬくと十大弟子に問うに敢えてとどまりたまえば四部の

大衆の懐ひ慕ふる所なり。汝お波斯匿王精舎へ往ひて慰ひ世尊の在ますや否や訊へ
舎利弗お就て其故を問へ。舎利弗が曰ク。四部の大衆身の安逸お貪り動行
懈怠なる哉。如来是を滅ひて久し。為俾と弟子仏もて世お治ひ化お
昇ひ。帝釈の殿裡お以て法華経を統て在り。國王が曰ク。朕如来お見たてまつり心
お悪念を生ぜざる。今世尊久遠に高天の住ひ。朕が意甚だ楽しまず。汝
天下の名医を撰び。如来の像を摹刻せよ。朕如来の天より
降りて。すぐに仏を世に出し崇め拝せんと。舎利弗國王の湯仰深く
を感嘆ひ。敬て王命を領掌て。普く國中の名工を求ふ。茲舎衛國の偏鄙お
昆首羯摩と云者あり。天性工匠の道お秀。木を彫て禽獣を造ふお能飛動
もる程の堪能なり。深く三宝お敬依て。平日お祇園精舎へ往て。梨ク統法
を聴き。仏顔式も能経なりぬれば。舎利弗羯摩を招ひ。せよ命を告て。梨
の法躰を摹刻ひ。と命ずる。羯摩歓喜踊躍て。我前生いかなる福縁お

依てか無上本覚の如来の尊容を彫刻ひ。る事生前の面目先後の本懐何ぞ
う見お過ん。て清浄水を以て身を清ひ。る斐七日栴檀の良材を撰て一室お閉
篭り敢て他の人を交ず。其身唯一人一度彫むこと三礼して精神を凝て
ぞ摹刻ひ。る羯摩が妻八室外お在て夫が独力を以て仏像を摹刻ひ。せん
こと。私かに思ひ一夜密お物の透間より室中お窺ひ。る数十人の天童在
て。羯摩が左右お侍り其力を扶ふお。斯ク羯摩が
日外重く丈六の仏像を彫畢ひ。る見お依て舎利
弗須達長者と議て祇園精舎お一宇の宝殿を新お造営て。羯摩が造る所の
霊像を安置て五鈷独鈷鈴瓶大舎三磬那ク尼地磐盤金炉三鈷錫錶等の
仏具を備へ供養ひ。る且仏像成就の告を國王へ告上ふる。波斯匿王太子卿
相お従へ精舎へ臨幸あり。宝殿へ昇て尊像を拝覧て。お毘首羯摩が精
神をこめて上天重工を補助て一刀三礼して摹刻ふる斐なれば。三十二相八十種

毘首羯摩天重の助力を得て木佛を彫む圖



好具足一端嚴の姝相如来の妙容と毫髪も違変なく感涙ホ御衣の袖を
沾ほし佛足を礼拝しおわって後毘首羯ナを召し佛像彫刻の功を賞しおわ
金銀珠玉を下し賜りぬ四部の大衆も如来の亜像を拝しおわって涸ホ吮日未の懈
怠を千悔せざる成追慕しまつると赤子の母を慕う如く各佛足を拝し我佛如来
早く下界へ降り弟子たちを教導まわんことを祈る

釋尊説二木佛功徳一

這時釈尊ハ兜率内院ホ在って統法已ホ畢れば。帝釈天ホ及び后妃ホ別を告ゆ上
ホ帝釈天ホ后妃ホ余波を惜ませおひさ抑留しおわせざる辞しおわって曰ク君ハ統法と
聴きおわって歓喜踊躍せざる者なし世ゆ安置せし木
佛を見まわんと賞誉しおわって合掌しおわて如来を拝
告ゆハんとす強って留りまわす要無ゆを緒天善神緒佛薩垂を召しおわて南天門ゆ送
らせまわす其后世ゆハ南天門より一瞬ノ中ホ祇園精舎ノ寶殿の裡へ天降りまわれ
む四部ノ大衆群生の人ホ遭ざるく歓喜踊躍せざる者なし世ゆ安置せし木
佛を見まわんと賞誉しおわて合掌しおわて如来を拝
しまつるホ其功徳のまた至拝をなすなり。三礼しまつる木佛ゆまた合掌しおわて如来を拝
拝。狂念三拝功徳三拝是なり。偽敬ホ無智ノ三拝。狂念ハ逆忘ノ三拝功徳を
智見ノ三拝。予今此木像を拝せハ功徳三拝なり。富留那酒菩提阿那律ホ
下ホ向って曰ク這木佛ホ如何なる功徳のや世ゆる曰ク你们ゆ予ハ自己直佛ホしおて三
輪を出ざ故ホ未期あり。這木佛ハ三輪なり故ホ未期なく無量壽ノ如
佛まつるごとく法まつるごとく功徳まつる。予滅度を執ることハ法滅
まつる事なり。ゆえに法滅ノ功徳滅まつる事有ることなく再び木佛ホ對ホ

ぜんぎく善哉々々汝等よく滅度の後四部の緒弟子等よく你不附属を。未世億々の衆生と倶に度せんとおもはゞ応当に丈六の釋迦漢木像を造るべし。是の如くせば福報無量ならん。阿難仏の教勅を聞き已て歓喜踊躍して仏に白して言さく。世尊我等如来滅後に於て云何が恭敬礼拝せん。仏阿難に告げたまはく。我滅後に於て応当に一切の仏像を造立して恭敬礼拝すべし。我般涅槃の後も猶在世の如くせよ。阿難仏像を造立するの功徳無量無辺なり。若人仏像を造立すれば即ち功徳の主となりて坐禅思惟の正躰なり。亦一切と縁ぶ正念信敬の功徳あつて罪障消滅し福慧増長して速に無上菩提を証せん。是の如く仏像を造立するの功徳は

但り期を知ず。拘尸城に生ること七日ありて。先妣摩耶夫人薨去したまひぬ。夫人愛道の慈育ありて成長す。幾ばくもなく一切種智を得る事偏に大愛道の恩なり。是ゆゑに父王浄飯王も猶高しとせざる海の如く。須弥山も猶浅しとする程に。尊重したまひぬ。

彼精舎へ到りたまひぬ。未期の御對面をなしたまふ。大愛道歓喜したまふこと限りなし。病牀を離れて佛足を拜したまひぬ。偖告ていはく。

八衆障の雲深く貪愛癡の霧厚きこと。永く悪趣に流転して。真如の月を見ること難しといへども。大愛道慇懃精進一念不動の功力に依て。諸の有結を盡し。無所着を得て。極楽浄土に往生したまひぬと疑ひ有べからざるとぞ。金剛般若経を統比丘尼に奉て統法したまひぬ。大愛道歓喜踊躍したまひぬ。五百の除饉男女僧の剋等も隨喜の泪をぞ流しける。如来の統法も畢ぬ。大愛道世寿逝去したまひぬ。

師徒の為に命を殺て供養したまひぬ。其後子の剋に端坐合掌して禅定に入如く。

女僧今更宛転哀哭して余波を惜ける程に。

練剤したまひぬ。擁檀の棺に収め。忉利天正寺に送り奉る。香油を灌ぎ茶毘したまひぬ。

ぞ。雞陀王大愛道の遺骨を収て。浄飯王の廟の右に七宝荘厳の浮屠をぞ

残る方なく追福作善したまひぬ。雞首比丘

流離王屠殺伊衆那國人民

茲に阿世羅國と云る國の都羅狗耶城の主優填王と申人深く世尊の説法に

皈依して。紫磨黄金の佛像を鋳させ。肉身の如来おはします。朝暮礼拝供養したまひぬ。信心の余り想れて。隣國舎夷國浄飯大王の御弟耳露飯王の

く親し紀世音の法験れで。朕其妃を得く後宮ホ難ハ幸しく一子を設此國と
續む是如来と門宗の繹種ホく。永く法脈を絶さで。國家安靜ケ久くしく
を上ド即河ホ舎夷國へ使者を立。親婚の義を望れり。此時年露飯王ハ逝去ありく嗣
子匿姿王世を治られり。今優填王の使者を得く。臣下を聚め此義如何ホん
と紆繚ある。臣下の輩織しく曰ク。阿世羅國を原我が國の屬國ホし臣てし
ホ事ふホ王の公主を需く妻妾ホせんとを
追返しむへと告ふホ臣下の中ホ摩訶男と云人抑止く曰優填王の望ホ私ホ違つり
とくとも。其本心我が國を侮ての故ホあらん。三宮ホ皈依の余り。繹種の亂を得ん
と欲をうなれで強ち悪むべき義ホあらで。益ホを妄ホ使者を辱ホく追返さで
好意却く悪心と爰に。怒激を發しく兵馬を起し攻来たし。我國の君臣上下如
来の戒律を保く殺生を禁じ。小虫と雖も殺さで。況軍戦をく人思もよらで
小臣愚案を廻ホいホ一つの計策あり。小臣ホ一人の處女あり。頗る端正美見な

れば。假ホ是を王女と号しく優填王ホ贈ば。眞の公主と思ひ怡ぐ迎とり。永
く貴を侵ことなくとりふで。匿姿王此義益ふし意しの摩訶男が處女
ホ毘羅綾の衣を着せ。七寶の瓔珞を頂ホせ王女を子と号しく輦車ホ乗しく阿
世羅國の使者ホしく。これ使者大ひホ悦び恩を謝しく舎夷國を立自國へ回
りく斯と報ず。優填王其妃を見るホ。衣冠善美なる上面見花の如く。細腰柳
の如くなれで大ひホ怡び。眞の王女ありと想ひ新ホ宮殿を建て住しめ。寵愛浅ら
ざ。遂ホ一男子を設り。其名を流離太子と号此太子ハすホ頂れ優填王
流離太子ホ對ひ你已ホ八才ホ及ぶり。舎夷國ハ射藝の堪能多しく彼國ホ到り射法
を学ぶしと命せれを。太子領掌しく。好苦林志しとり。者ぐり數十人の近至と
従しく舎夷國ホ到り。摩訶男が家ホ往又王の命を告。射を学ん人妻を娶ふホ。
摩訶男ハ我が孫の事ホ一議ホも及ざ。まと。紆繚しく我が家ホ留しく日毎ホ教場へ出
し。緒釋種の童子とともしく射法を学ぶ。流離太子ホ

男が孫」と知らず侮り怪んで太子推心を憤まざるの事のこころ

我が他國の者なれば斯をするこころぞ。胸を抑へ射法を学ばれよ。若し戒時

流離太子好若梵士們と逍遥せんが新に建てし講堂有れば何心なく梵士們と内

へ入来りこころ見るより大いに怒り此堂は如来を請じ供養せんが為に新に

建立せし講堂ぞ。素姓卑き摩訶男が孫を遊ばする所なるぞ早く去れと

よろこく杖をもつて流離太子好若梵士們を散々に打擲して追出しぬれば太子大

童心ならず惜み入る心中を想道我父の譲を受けて王となるも甚言く此恥辱と雪

ぐと拳を握り牙を咬路上をどう好若梵志に謂て曰我成長して國王となら

ば舎夷國を伐夷んで今日の恥辱を雪ぐと想い我が後年を忘るべからず汝心

を覚て我が告んと命じ。儲て阿男が舎に帰り別を告て國へ皈られたり其後年

月推移り。優填王逝去ありて流離太子譲を受流離王と称して一國の政事と

執行い女色に耽り驕奢に荒淫そのうえ昔日の恨を忘失れり。好若林に行て

旧仇を忘まじと戒時流離王に告ぐ。曰く舎夷國の講堂に上りて恥辱

をうけむりむりを忘んと向ぞ流離王勃然として色を変じ我実に往日の

恥辱を忘んや。軍馬を起して舎夷國の人民を一人も残さず殺し盡くさんと

三十萬の兵馬を發して國を打立て舎夷國へ進伐を催す。阿難は是を聞て父

母の國の大事なれば大いに驚き世尊に告らく。阿世羅國の流離王が猛軍

を發して舎夷國を伐んとす。彼國人々は如来の戒律を授りて殺生を禁ず。

兵刃を把て敵を拒ぎ防ぐこと能ず。素より如来の親戚の國なり可憐哉神力

を以て大厄難を救ひ玉へと乞世尊曰く舎夷國王たち諸釋種因位の宿業の

依て流離王の為に屠殺をうけんこと只其災害を蒙ること

宿因を果さんむなしく敢て強ひ玉ふ。阿難佛命を受けて悟と

いとど猶族滅せらるゝを忍ざる因連ふ救を乞因連是を諾し釋種五千人を紳通かぎり鉄鉢の裡ふ入虚空ふ上らく隠し置まつり斯くて流離王八三十萬の兵馬を領らく舎夷國へ押寄れば釋種を聚め十萬人を城外ふ出し敵を防ぐも此軍皆三宝ふ皈依し戒律を授けしかば敵を殺さず悪を好まず悉く鏃を抜唯怕し退ちもんとこ構ふる流離王八猛烈の悪王なれば自己衆を傷ひ勢弓絃をならべく散ふ射る事り雨萬國ふ勝れ數百歩の外を射とゝろきて流離王も其前さ死を怖さく進こ得ざれば已ふ引退んとせふ好苦林七曳止め練さく曰く敵勢弓勢屬と雖も皆釈迦乃戒律を受く人命を殺害せる事ふ非ず唯押寄さ一人も残さず屠殺むべと勧む流離王是ふ機を整へ聚軍を下知らく攻進むふ実ふ焼土り推察り如く敵雨り如く箭を射ること甚だ激く鏃を乱箭なれば味方一人も死傷の者なし是ふ依らく阿世羅國乃勢大りふ心を安ん鉦鼓を鳴らく殺到るふど舎夷國の軍敗れふ陣隊を破れ皆城中へ逃籠る釈迦尊ふ釈種乃人民乃中ふ孝行男子家の者を殺戮せる事を哀れ其一族内時ふ自殺らり流離王八是を三軍ふ令を薄く屠殺せよ但し全夷國ふ美婦孝行容色勝れる者を捉て我ふ得ん事を願ふ貴をおまるゝと觸らす無二無三ふ城門を攻破り数十頭ふ悉象と共ふ城中乃人民乃中ふ入釈種乃家の底ら死骸を探り出し流離王乃前ふ曳到り斯と告流離王ハ釈男乃死相を見く甚だ憐ぶ祖父我乃此國ふ至て慣て死ん事を頻ふ懶悔ら悲歎ふ勝ざる所へ軍吏五百人の三女を生捕く曳来り王ふ献る王信宮女を召ふ皆無双乃國色なれば悉く

流雜王ゾ暴悪
舍衛國の人民を
殺されもる

を忘く歓喜す。縄を解き安撫して曰く。你們憂ひ怕る事なれ我が後宮に住せしめ娯楽を極めたむるに容貌勝れ宮女を近く招き多く侍女を設け人をして宮女大いに怒り汝ハ是卑賤の者の孫何ぞ貴姓の船を擧んとて散々に罵れば流離王勃然として大いに憤激し即時に軍吏に命じ其の女の手足を斬堀の裡へ捨させ。残りの宮女ハ錦衣玉食おも飽しむるに。皆く者ハ彼女を以て例とせんことを恐れ人々情通をなし殺さんと欲せば你ら意おもふせよと先を怕ぢ悪言をなして流離王躍り上り大いに勃怒し。或面の皮を剥或ハ腹を裂死なんに五百の宮女一人も残さず屠殺し。堀の埋草とあるハ言絶え絶せず暴悪かりき。流離王ハ迦毘羅衛の隣舎夷國の人民を殺し盡し。昔日の仇を復しんと軍を収て阿世羅國を攻陣しそも。目連尊者世尊に詣て曰阿難先に如来おそく。舎夷國の夫昔を救ひ給へと願ふも如来閉位乃宿業奈何ともすべからず救ひ玉ぞ阿難猶親風の美

くら久妻を憂ひ弟子ハ救ひを求めず。僅ハ五千人乃釋種を鉄鉢の裡ハ隠し助命いと言ふ。流離王曰往古此舎夷國ハ大饑饉有て一鉢乃金ハ其時釈尊の目連ニ命じ諸弟子ハ統て曰往古此舎夷國ハ大饑饉有て一鉢乃金ハ一鉢の米を易ぬ是ハ依て人民木皮草根を食ひ飢を凌ぐハ果ハ木皮草根をも食盡し絶えて大池乃水を汲ハ數萬の輿を捉ひ是を食を唯二人の小児ハ数千の輿を畜ハ拾隠し入ハ食せしかを。相識ハ後放ち活さんと妻を勧ハ二尾を拘攣と号ひ二尾を妻ハ吾と号ひ二輿相結

死せり亦水中ハ二尾の大輿あり。一尾

て曰我们八是池中の水族敢く信國の人民ホ害を加へど我ら城中の人民亡女ホ我ら種類を害ー喰。又恨あらば生を易ろとも此仇を復さゞ在ざれと絡畢さく二六ら奥も遂ホ捉噉ら彼奥を捉噉ー人民八今ー舎夷國城中の君臣見之拘璟奥ら今ら流離王ありら妻ホ奥を今の好善梵士ありら殺ーく彼二人の小児を阿難月連ありら奥を殺せー宿業ホ依て。今五千の人を鉢中ホ隠ー餓死せーあくり皆是因位のむくゐ所なれば神通力ホもてホ支能ばず統ホ阿難目連其余の緒羅漢ホ因果應報の瑞的ら以勸息ー亦向く曰ず緒釈種前報ホ依ら。流離王の為ホ屠殺さる流離王八悪逆殘忍ホて猶存命せり此後の支八如何ありいせと向世る曰。緒釈種前因ホ依て流離が為ホ屠殺せらるゝも誠行をまさく敵の人命と傷を其功力ホ依ら皆天上ホ生ー限ありら楽を受ばー流離王八因位の仇を償とくら。三宝ホ皈依せど暴悪又甚ぐーなれば七日の後大厄難ホ遭衆臣と倶ホ阿鼻地獄ホ墮落さばーと統

理ホど。緒羅漢感慨ー。佛統勅ら如くなれば流離王ら身り上ホ危れとど思ふる。勅ら小此支維ろとー久流離王傳歩さく大ホ驚ら。懊悩ーく寝食を安人ばざ好ま梵士綵く曰大王何を婦女子の如く。釈迦の妄言を信ー。ゆくや今や隣國大王ら猛威ホ怕く貴を侵を者なく國人大王の善政ホ伏ーく業を樂ーら何ホ依てら恣ホ生ドれら。死心を放て歓樂ーゆべーと告ホを流離王ホ梵士ら辞ホ惑ひ恐懼の念を忘ま美女を迫ばけく淫樂ー。酒肉を貪て娯樂ー酒飽足ど。阿脂羅河とら川辺ホ往。美女を左右ホ一緒臣下を聚ろい酒宴を催ー歓樂ーく在ふ。俄ばくーく不時ホ黒雲殺り。暴風大雨降ホ雷鳴天地を震をだうれど。流離王ら緒人大ホ周障狼狽ー我先ホ逃んとすれど四方唯冥々ーく咫尺の間も見えらど。電光透間ありく内ー妻ー方々ら一拝ら。眷人地上ホ倒ばー手足を張さ怕恐むらも百千の雷落ろと流離王好善梵七を先うて隨従せ男女一人も残ど微塵ホ砕れ亦ーとりら加之日時ホ羅狗那城ら天大

隆ㇾ宮殿緒房一奇ホ焼亡ㇾ。宮女婇女緒官人老幼男女泣叫。我先ホ遁ㇾ避ㇾ
ㇾれ。猛火八方ホ充満れ。遁ㇾ路ヲ。煙ホ焦ㇾ煙ホ咆形勢叫喚大叫喚ノ
苦ホ異ナラ。城中ノ人民一人モ残ラ死ㇾ多ㇾ恐ろㇾいも踈ナリ。余國ノ諸人
迫ㇾ日ホ視遠ㇾ傳ヒ。佛言ノ違ハ。感ト。愈悪ヲ捨善ヲ修ㇾ三寶ヲ
心ヲ傾ケ々ろ

釋尊統法大略

偖ホ釈伽牟尼世尊ハ一切衆生ノ為ホ普ク四天下ヲ廻リ。三世因果ノ理ヲ示ㇾ
統法ㇾ事支前後四十九年。統ヲ経ハ華嚴経。八七所九會ノ統法ナリ。第一ホハ广竭國
ㇾ五時六題ノ御法ナリ。初頓華嚴阿含方等。般若法華涅槃ト号
阿蘭若會ホ六品ヲ統ヲ。二ホ曰。世主妙嚴品二ホ曰。如来現相品三ホ曰。普賢三
昧品四ホ曰世界成就品。五ホ曰。華藏世界品六ホ曰毘盧遮那品是ナリ第二ホ
广竭國摩連河曲普光明殿會ホ六品ヲ統ヲ。一ホ曰如来名号品二ホ曰四諦
品三ホ曰光明覚品四ホ曰菩薩問明品五ホ曰淨行品六ホ曰賢首品ナリ第三ホハ
忉利天會ホ六品ヲ統十住ノ御法ヲ示ㇾヲ。一ホ曰昇須彌頂品二ホ曰須彌
頂偈讃歎品三ホ曰十住品四ホ曰梵行品五ホ曰發心功德品六ホ曰統法品ナリ第四
ホ夜ノ郎天會ホ六品ヲ統十行ノ御法ヲ述ヲ。一ホ曰昇广郎品二ホ曰夜ノ偈讃
品三ホ曰十行品四ホ曰無盡品ナリ。第五ホハ兜率天會ホ六品ヲ統十回向ノ法
ヲ教ヘヲ。一ホ曰昇兜率品二ホ曰昇兜率讃歎品三ホ曰十回向品ナリ。第六
ホハ他化天會ホ六品ヲ統ヲ。一ホ曰昇他化天會品二ホ曰十地品ヲ統ヲ。第七ホハ重會普光明殿ホ六品ヲ統
十地勝進ノ行ヲ教ヲ。一ホ曰十定品二ホ曰。十通品三ホ曰。十忍品四ホ曰阿僧祇
品五ホ曰壽量品六ホ曰菩薩住所品七ホ曰不思議法品八ホ曰相海品九ホ曰
隨相光明功德品十ホ曰如来出現品ナリ。第八ホハ三會普光
明殿ホ六品ヲ統ヲ。離世間品是ナリ。第九ホハ逝多林會ホ六入法界品ヲ
統ヲ。如来自己阿僧祇品ヲ隨相光明功德品ヲ統ヲ。餘品ハ金剛幢

舍衛國の人民
飢饉に困しみ
大魚を屠殺す
圖

金剛藏法會切德林四人乃菩薩ホ加被シ玆ニ統ムルアリ。其ホ長時ノ華嚴尽未来際ノ基ヲ啟入法界ノ華嚴後分ノ花嚴等ハ二加藍舍利弗富樓那目連優樓賓羅ホ統セムルヲ。阿含經トシテ雜阿含長阿含增一阿含中阿含是ヲ四阿含ト号ク。戒定惠ノ三學ヲ十二年ノ間ホ統ムルアリ。方等經ト總ハ十六年ノ統法ナリ所總方等要惠方等大集方等頂王方等光想方等大雲方等佛藏方等陀羅尼其ホ種ホ加種ホ觀佛三昧等是ナリ。般若經ト總ハ四所十六會ノ統法ナリ。第七會ニ靈鷲山ホテ統ムル一リノ所總大品般若放光般若光讃般若小品般若道行般若大明度般若天王般若是ナリ。第八會ヨリ九會ヨリ十會ニ給孤独園ホク統ムルアリ文殊問般若金剛般若是ナリ。第十會ニ他化天宮ホク一巻般若ヲ統ムルアリ。第十一會ヨリ第十四會ニ再ビ給孤独園ホク戒勤忍三種ノ禪法ヲ統ムルアリ。第十五會ハ又靈鷲山ホク彌勒ノ下生ヲ統ムルアリ。第十六會ハ竹林精舍ホク智惠ヲ統ムルアリ。其ホ抜

耶尼國ホク婆陀和菩薩ノ為ホ菩行般若ヲ統ムルアリ。其後二十余年ヲ経テ仁王般若ヲ統ムルアリ。阿闍世納陀鬼仙龍種ノ六ノ太子ヲ統ムルアリ。般若ノ功力ナリ。法華經ト總ハ二所會ノ經ナリ。其題目二十八品第一ハ靈鷲山ホク序品ト方便品ヲ統ムルアリ。第二ハ虚空會ホク十一品ヲ統ムルアリ。宝塔品提婆品勧持品安樂行品涌出品壽量品分別功德品隨喜功德品法師功德品常不軽菩薩品如来神力品等ナリ。ホ靈鷲山會ホク十七品ヲ統ムルアリ。嘱累品藥王品本事品普賢菩薩勧発品ホ上二十八品ノ妙經ナリ。上六菩薩摩訶薩淸天緒像如来ホ羅刹龍王鬼神ホ釈女ホ對シテ統法ムルアリ。涅槃經ハ就中世尊自己入滅ノ期ヲ知覚シテ物尸那城跋提河ノ辺リ娑羅雙林ホ於テ四部ノ大衆ノ為ホ二十五品ヲ統ムルアリ。序品純陀品衣歎品ノ三品ホハ涅槃絶ヲ統ム外道小乘ノ三種ヲ破シテ正法ノ三種ヲ示シムルアリ。長壽品金剛身品名字功

德品相品四依品邪正品四諦品倒品如來性品文字品鳥喻品月喻品菩薩品大衆所問品此十四品ホ小涅槃ノ義ヲ述ヘ現病品聖行品梵行品嬰兒行品德王品ノ五品ホ涅槃ノ行ヲ統ヘ師子吼品迦葉品陳如品ノ三品ホ涅槃ノ勝用ヲ統ヘ一切衆生悉有佛性如來常住無有変易ト教ヘ且有心者決定當得阿耨菩提ト示ヘリ。是レ難有ノ事ナリ。

釋尊遺言ヲ涅槃

世尊室筭七十七歳ノ時靈鷲山會上ニ於テ。十大弟子十六羅漢五百羅漢其ノ余三千三百余人ノ大衆ヲ聚メ。御ヲ八緒羅漢ノ修行ノ時ニ就テ撰擇セラレ。各領掌ノ修行ノ座位ヲ正シ道理アリ。皆集會ヲ令ヘリ。一座具ヲ敷キ坐ヲ占メ。次德三時ノ座禪ヲ行ヒ。其時世尊獅子ノ高座ホ上ヘ。金婆羅華ヲ以テ花ヲ左リ御手ホ持セラレ。曰ク今日ノ說法ハ功德附屬ノ大事ナリ。汝一乘ノ教ホ四列ヲ積一乘ノ教ホ四天下ト包ム理リ。此花ホ三見アリ。一ホ八種ヲ說法三昧功德擧阿阿二ホ眞如無爲統法寂滅擧阿阿三ホ眞如舍利非寂滅擧阿阿功德附屬ト示ヘリ。金婆羅華ヲ捧ケホ緒羅漢ハ其意ヲ悟得ヒ座禪ニ入リ默然トホ擧阿迦葉一人破顏微笑ヘ。虛空ヲ觀ジ坐具ヲ綻リ。虛空ヲ起坐具ヲ在ヘリ。禪歡喜ヘ曰ク吾ホ正法眼藏涅槃妙心實相無相微妙法門アリ。不立文字教外別傳ナリ。擧阿行ノ功德迦葉ホ附屬ヒ金婆羅華正覺下化衆生ヲ成ヘリ。自己迦葉ノ手ヘ渡ス事ヲ以テ後ノ如來ト号ケリ。世尊ハ鷄足山ホ住ヘ。法ヲ修ヘ定ヲ修ヘ舍利弗阿難富迦耶羅睺羅ヲ始メ園精舍ホ在ヘ。法ヲ修ヘ同連阿難ハ毎ニ其後又二年ヲ世ニ在ス。跋提河ノ辺ニ於テ娑羅雙林ホ入滅ス。統法ヲ付ヒ二月上旬ホ到リヘ。忽チ背痛ノ病ヲ得ヒ法牀ホ臥ヒ給ヒ阿羅漢達大ノホ弟子諸國ホ名聲ヲ轟ヘ治療ヘ給ヘ共ヘ殞ノ惑ヲ世ニ制止メ給ヒ。

暴悪を罰して天雷流離王が王宮と焼君臣と撃殺す図

まぬ
已お滅度の時至まり。敢く醫藥の及ぶ所おとこそ。今滅の後八摩訶迦葉を
師と一四部の大衆と舍利弗目連富樓那可難阿難須菩提羅睺羅八七賢
勇ふ就く無為成道を修せよ。遺言一ゐ。諸羅漢諸大衆是おくち地わ
仆て泣悲こ是八奈何なる御叓ぞや。弟子等いまご真正等覺ゝ與言を得ど。
忽ち滅如來忽ふ捨く湿槃ふ入むば弟子們を大洋ふ漂く揖を折。晝夜一遂
く燈を消ける如。維を頼てう彼岸へ到りいと。仰ぐ願く八我佛如來憐愍を垂
く牖一劫を往むひ。弟子們を教導すせむへと願をれば世る尊手を揮むひ。愚や
佗達天壽素り定數わり。何ぞ方便ゝ是を延を叓を得べきハ。常願の如く普
心修行一正覺成道を叓を得く今將ふ永く生老病死ゝ四苦を離るゝの期到
まり。歡喜何叓ぞ是ふ如ゝれと曰ひ其後八約を縮く練をれども一言も答をな
一むかど。御身一り金色の光明を放ちむひ其光大千世界ふ充りく諸所ふ
あれ一阿羅漢八むさりなり。七枝天帝釋四天王無數の天部諸善神中ふ八

百國ゝ王諸仙諸道師一。下八森羅法王萬眷族。大龍王恒沙の水族ふりる迄。この
光明を見ゝ大苦惱を生一。是將ふ鐸迦牟尼佛滅度を執ゝむ瑞應ぞるなーそ
怨忘長號泣一く勝るゝ能ゝせをく如來の湿槃の拠好を拜一もるゝ人と悉く双林
へ集會ある世尊八娑羅双樹ゝ下なる法ゝ林の上ふ頭北面西右脇卧ふ卧むひ。諸
行無常の機を現一。鶴ゝ林ゆれぐふ頼をくなく。況ゑむ萬億ゝ佛尼間ゆ香
心淌ゐ生滅法の春ゝ花今や常なる風ゝ誘ゝと。紅ゝ淚ふ衣ゝ袖を絞り悲情
牛馬大羊象獅子虎豹ゝ下ゝ飛禽其他羽虫化虫鰓虫ふりるゆく。双林ゝ辺ふ聚く。頭を俄れ羽を縮へ如來ゝく威を恐
そまりねゑふれく悼ゆれ八忉利天喜見城ふ住ゐ帝釋天ゝ后妃八。先ゐ
如く。正一く前身八佛母摩耶夫人ゆく。ゝ世むひ五衰ゝ惡ゑ見
玉ふ其二ふ八羅刹奔走一く人間ゝ眼中ふ入其二ふ
を后妃自己寶冠を失ひ身躰光明消其曲ふ金珠幢倒生如ゐ息珠を失ひ其五

ホ獅子来ク身躰を咬痍痛刀ヲ以ク割ガ如シ。后妃此夢を見テ驚キ
思惟シ玉ヘル八月已因位の昔浄飯王乃后妃ホ備リ。奇夢を見ク如来を懐
妊セシホ想ヒ。ク疑ヲ生ジ。這五箇ノ夢ハ吉なり疑ラハ釈迦牟尼世尊滅
度を執ラホ凶兆ホハあらざるらンと思ヒ玉ホ不思議や頭上ノ花蓋ヨリホ
より汗出三ホハ頂中の光滅シ四ホハ両眼数瞬ク五ホハ本座ホ著ヨ懶
妃倍隊ヲ以ホ所ホ飛行ヲ里子来ク帝釈天如来の入滅を拝セントク娑羅双林へ
降玉ヘリと報ゼ后妃是を聞玉ヒテ。ク悲ヲ生ジ五悪夢五喪乃ヨリ出テ如来滅
度の凶兆なりとク。悩衰ホ勝ゼ悶絶躃地シ玉ヘ。宮女们大ホ発ク声を挙ヲ
ク呼活スルホ難リ玉ヒ御泪両の如ク赤ヨ絶入ルク歎ク玉ヒテ。ク息
ばれ玉ヒ天宮ホ秘スル起死回生の不老薬ヲ取リ来ル。錦ノ嚢ホ収ク携玉ヒ数
千の宮女を随ヘ八葉の輦車ホ乗ジ飛行童子ホ前後を護セ浄雲ホ送ラレク
娑羅雙林をさして天降リ玉ホ所ホ白鵠孔雀鸚鵡舎利白鶴鴛鴦迦陵頻伽
父上七種の鳥数万羽飛来リ羽風を発シク后妃の御車を吹キ戻シ玉ホ
雙林へ降ルヨリ。ク横障の雲を垂レ玉ヒ天の通路ヨ塞リ玉ヒ后妃是ハ浅ク
や再度如来ホ見ヨル事ヨ能ザラン。ク輦車の裡ホ伏シ玉ヒテ。ク
ガ余の変ノ未ダ起ラホ先ニ起死回生の霊薬を使ヒ手ホ揉ク是ホ如来の御
手ホ届ケント。ク欲我今至身心ヲ鎮直至如来不老薬と唱ヘ玉ヒ雙林へ
ク投下シ玉ホ這仙薬飛鳥の如ク娑羅双林の如来の法躰ヨ一ク飛降ルガ
世ヨノ御ヘ滅ハ定マレル事ホやさ。ク后妃の霊丹霍林樹の梢ホ停リク如来の
御手ホ。ク握ルヲ力ヲ以時ホ雙林ホハ三千世界の諸仏薩埵天帝釋諸
天将百國ノ緒王緒仙緒道師。阿修羅迦累羅八大龍王ホ。ク迫如来宝躰ヨ
の相好を拝ヨルホ面ヘリ光明を放ち大千世界を照シ玉ヒ其光ノ裡ホ無
量の化仏出現シ玉ヒ種々ノ妓花を降シ妓楽を奏シ。西方浄土無量壽如来
も紫雲ホ乗ジク来降シ玉ヒ極楽界ヨリ引接シ玉ヒ休相ホ現ジ玉ヒ及ホれ

を流し合掌せるごとし。時に二月十五日寅の上剋大恩教主釋尊、年八十有二、入滅を唱へ、佛生滅を已寂滅爲樂の儀を示し、遂に寂光の都へ皈らせ給ひぬれども無數の天部無量の人類禽獸緒虫ふりそゝぎ聲を放ち泣悲ふ事、譬へん方なし。

釋尊滅後現五妙神力

緒羅漢達ハ斯く在果ぶれふれども如来の玉骸を守護し、跋提河を渡り天冠まふけ、浄香湯を以て沐浴し、百端の長氈を以て裹み、七宝の金棺ふ飾り、香油を灌ぎ、稱讃の擧ふ納め其上を鉄擧ふ以て封じ、郊外ふ送りける。其ハ々ふ、爰周第一の阿難尊者、智恵第一ハ舍利弗尊者、解空第一の須菩提尊者、統法第一の富樓那尊者、神通第一の目連尊者、論義第一の迦旃延尊者、天眼第一の阿那律尊者、信敬第一の可難尊者、密行第一の羅睺羅尊者、頭陀第一の阿迦藍を始め、如く八大法掠を舁り、其優婆離、賓頭盧、伽緒迦、伐蹉、跋壁、墮闍鞞頻陀、緒羅跋陀羅、迦里伽、半托迦、那伽遲、那因陀

伐闍羅弗多羅、伐博迦、伐那波斯、阿氏多、注荼半托迦、羅漢ハ此八尊ハ金棺ふ先ゝ金鼓法螺ふ鳴し、是ハ羅漢ハ萬億の御弟子の中ふ勝れ、功をなげ、各六通を得、蓋の身ふ添如く、如来ふ隨従ふなれバ、一ふ歓ひ一ふ色深く、各名を玉籠宝花華鬘、味燈明及び種々の佛具を持、金棺の背ふ隨ひ、其次ふハ五百羅漢等の大衆送りなり、其他雑陀王を始め、百國の緒王民間の老若男女、悲歎の泪を無く、郊外ふ充満せり。斯て緒羅漢ハ香薪を積み、金棺を居、明法々急心を改め、華厳阿含方等般若法華涅槃等の妙教を纂編し、三昧座禅観察加行真言動行し、浄火を香薪ふ付、茶毘し奉ふ何なる叓ふや敢て燃投らざるを、煙ぶ揚らざれバ人々是ハ如何香薪を積み香油を灌ぐ火を付れども、猶火移ざれバ大ふ歎き、残れる葬法佛意ふ協ざるふやと各論議あるふ、阿那律女時思惟して嘯と手を拍て曰香薪の

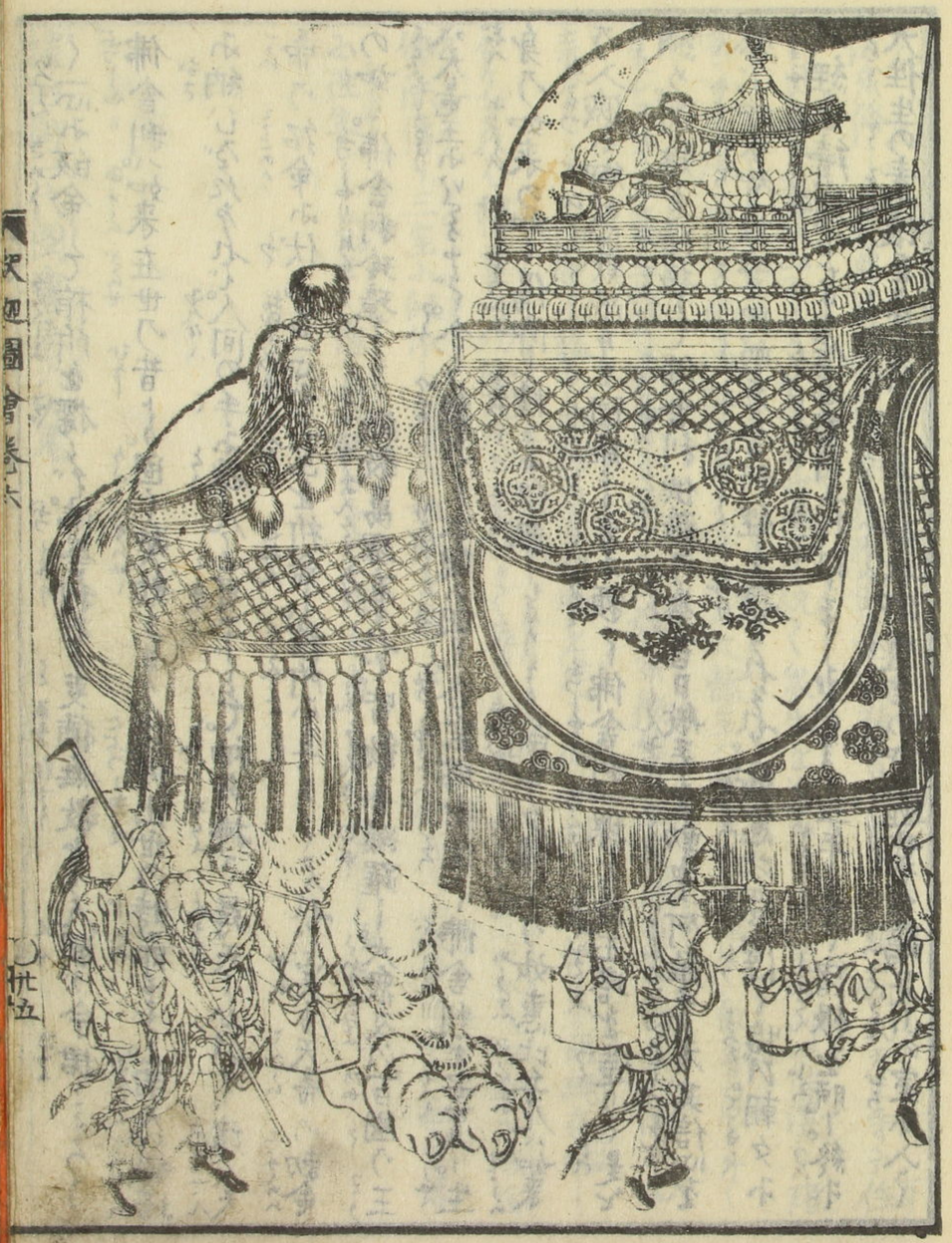
燃ざる八摩訶迦葉を待ち玉ふ。彼師兄波婆國鶏足山乃窒に籠まり六神通を得我佛如来ましまし滅後の如来と仰ぐべしと曰ひの大徳かくべく疾う如来の湿槃を知るべし今ぶ至るまじ来ざる八如何なる事ぞや各女時を延待観察らく待ちへと告れど衆元と日意一三昧加行らく佛掃を聞続をう所ぶ果て大迦葉五百人の徒弟を引く天竺きの郊外ぶ来着一気に大衆見をつく今更如来の御在世を思出一再び悲歎の涙ぶ袖をど絞りける大迦葉其体と見く噫気疎や如来已ぶ滅度を執ぶ人々八何を恐むまうんと天を仰ぐ大ぶ大きなる声三度ぶ叫ぶ大衆皆を覚一く悶果見八その如何如来ぶ別をまり一悲歎の余り幾狂せーぐ亦八天魔破旬の魅者堪るく迦葉ぶ対ひ師兄八如来出山乃始より三界と倶ぶ往来とまりむなし明識投群なるべくも今悼ぶ法王如来入滅一ひ我ぐ四部の大衆乃悲歎を以ぶ更まり。天上の緒神緒菩薩地下の龍王水族より飛情の禽獣緒魚まで悲歎数く如来の別を惜まるぶ師兄八如来の臨終の時ぶも来臨なく遅ぶ後れく徐く今茲ぶ来り剰へ我ぐ悲歎を笑ひ玉八いかなる不審の御事なりと怒気を含ぐ問れ。迦葉色を正一答へ曰。事も愚乃向事ぞ。我ぐ三度笑ぶ八可笑まと嬉ぶ支と面白ぶ支と三つの笑ぶ支有を以ぐまり阿難盈怒ぐ曰。是八尊支ぶさいふぶ先可笑支とハ何ぶ可笑やと。迦葉乃曰。和僧ら緒羅漢如来ぶ遣ひ事八四十九年乃妙統を聴ぶ一更如来の入滅を有ぎ一ぶ支の安ぶ法乃魂を失ひ愁歎ある八将ぶ阿羅漢の位を放ち俗躰凡夫ぶ異なら玉其可笑き、ぶ笑ひーまり。二ぶ素我が師釋尊八生々世々乃善慧菩薩と称一まり一切緒天王の尊信厚ぐ。上畏ぶ在ぐ法を統玉ひーぶ。一更太悲願を發一玉八下界の一切衆生無量の罪を造り永ぐ悪趣ぶ沈淪とを憐ぐおぼれ是を添度せんとて一生補處を去ぐ。浄飯王の后妃摩耶夫人を因位乃結縁有ぶ上彼夫人乃命數盡ぐ。其年其月ぶ命終ぁるべきを知覚一

夢に托胎す。其胎内に宿り。四月八日に降誕あり。七日の後に夫人を喪ひ玉ふ。是
り天數ありて如来降誕の故にあらざるなり。如来胎中を借むがごとし。逝去ありて
ふ定命ありて然る所、愚昧肉眼の凡夫の如来の誕生を喪ひ玉ふこと
歯牙をもふに不足辨ずるなり。其ごとくまれ。我佛如来御悲願の如く下界に出
現ありて。廣大無辺の法を説ひ一切衆生を済度す。再び寂光の都へ還り玉ふ
へざること佛心満足ありて人々と思ふ故なり。嬉しさに限りなく笑ひたり。三つおそ如来の
本不生不滅の御身なる故前に云ふ如く普く衆生を仕益せんとある。手に穢不浄の
人界に生を托し。今涅槃ありて。諸行無常。是生滅法生滅を已て寂滅為楽の機
を示し。菩薩羅漢四部の大衆の佛法に心停ることなし。未だ不停久試みの事の
面白さに笑ひたり。迦葉が鉄石心未練の態敷に設狂をなすべきにあらざるに固り天魔
破旬に惑さるるものをや。猶も不審のいでと天に響く大音ありて。弟舌流水の
如く述ありて阿難を首として萬億の大衆百國の王民間賢愚ありとあらゆる
感じ。実に如来の高弟滅後の如来と仰ぐべきと曰ひ。世尊の金言宣なりそうと
各讃歎しそうり時に迦葉阿難に對して曰我緒羅漢に後れて如来涅槃の相
好を拝さるるを我に金指を向けて拝さむへと望まる。阿難大に驚き
みずからげなる御望ありて如来滅度を執ひて已に七日残往いぜ今八法捐ありて
玉ふ。此義を愚に止まりむべき。固く辞じ肯せを強ふ不測なるに如来の金
指自然に開け金色の御手を出して迦葉を招き玉ふ。大衆大に驚き
や如来に未だ命終むざりざるの如。指に収め大を子なり一度の如く躰
身に令汗を流し慚愧後悔を迦葉に是を目にかけ阿難を
り側へに寄如来の法柄を拝しまり。随喜の涙に法衣の襟を沾されり。其時佛左
り御手に法衣と鉄鉢を執て迦葉尊者に附属ありて右の御手に袈裟と肘具とを
把て阿難に付属ありて両羅漢縫ひ是を頂戴有れば金指亦自然に扉を開
忽ち一大円相の金光輝き出て縮毫を照し。野草樹木盡く金の色とあり緒

光明を照され、金棺を定むるまで、次に光明の裡に三昧土現じて
金殿玉塔さながら、其次に如来の智火自然に發て、梅檀の
薪に燃うたり、烈焔と燄上りぬ、其次に猛火自然大鳳と変じて燄さかに鎮まると
其次に佛舎利出現を見て涅槃の五故神力とやせり、不思議といふも疎なり、諸
羅漢大衆緒王貴賤、くる〳〵雖ども信心の普發ざるなし、皆金剛合掌
〳〵、異口音に南無佛〳〵と唱〳〵恭敬礼拝を其後焔消煙鎮りぬれば、大
気父の刹に強く〳〵位着き、雲龍ども如斯こと七日七夜に及びぬれど大衆倦厭の
今、大気を鎮めんと數百人跋大河の浄水を汲運び〳〵灌といふも疎なり、諸
なり。舎利弗堪ふ〳〵大龍王に對ひ、汝等両を降し〳〵大気を鎮めよと令〳〵ぬれば、八
大龍王奉りぬ〳〵。恒沙の眷族と倶に跋提河に身を漫し、虚空に騰り、水を
捲風を發して大雨を降し、三日三夜大鳳に洒ぐも大気父前に倍〳〵燄々として八各十
針盡〳〵絶をぞ見る。

あり〳〵。當来作佛の結縁の為。如来滅後の佛舎利を南天の鐵塔に收まりと
願むひ〳〵一度なれど。今入滅の時に臨み其期を待ひ、己に悠光の如火發りて上
り七日七夜を徑れむ今、佛舎利を据ひ納むる時節なり〳〵。飛行童子を以
〳〵七宝の霊塔を舁来らせ、后妃も此王塔を守護〳〵。火鳳の辺に降り立ひ。諸大衆百國の
悦喜限なし。后妃と倶に宝塔を守護〳〵。帝釈天御
王是に恐ある光臨ありぬ。首を低恭敬礼拝を此時さしも熾なる大気忽
ち〳〵涼風と変じ。十宝の砂を生じ。金棺の跡に八色の佛舎利金剛の如く現れ
り。帝釈天も后妃も感涙と倶に王塔の裡へ佛舎利を据ひ納め飛行童子を
舁せ〳〵これ天上へ舁んとすれども。四部の大衆百王貴賤大いに歎き。是は如何ぞや
御衣ぞや大気の鎮まる七日七夜待ひも。何率佛舎利を得ず。滅後の如来と拝
まゝん為なり。尚盡を据ひ去ぬるを情なく可憐。佐ぐを全もち手むこと數れ
然ども願ひ。帝釈天衆人を顧むひ愚なる者どもの願ひ。仏に信心深

佛舍利を
得て
百國の王
歸國す



く一心お皈命して棺所を探るべし。佛舍利ある支提無數なるべし。朕が今据ところの佛舍利ハ如來在世の昔より固く契約しまゐらせ。後佛出世の時節まで。南天の鐵塔お納むべきなれば。人間の手お採んこと可ずして。神及ひ梵天帝釋の紹命お伏し。各一心お三寶お祈念して。棺所お立ちどころに探れ。實の天帝の勅命の如く。佛舍利玲瓏として。捜數萬環有れば。皆歡喜踊躍して。大衆及ひ百國の王八大竜王おりてまづ各々戴きて。本國お回り。各寶塔を造りて佛舍利を安置して。生身の如來の如く。偶仰し。種々お供養しまゐらせ。就中夕陽山の妙惠比丘尼ハ如來の入滅お御愁歎限りなく。阿難を者お頼りて佛舍利一環を得。玉塔を造りて是を納め。阿難を請招して佛舍利供養の為。百日般若を勤むべし。阿難を者其信心を感じ。如來智性摩訶般若舍利經を授られぬ。妙惠比丘尼深く悦び。朝夕此經を讀誦しまゐらせ。信心堅固お行じまゐらせ。二年を經て諸根を脫し。終お大往生の素懷を遂げまゐり。且亦如來御遺言の如く。迦葉を鷄足山の室お入りて法滅修し。舍利弗可難富樓那羅睺羅八祇園精舍お住し。阿難八忉利天正寺お住し。同連家頭山お入各如來の妙經を續く衆生を濟度し。其余の阿羅漢も諸國の靈場お住ぐ佛法弘通ある。偖彼八大龍王八佛舍利を得て歡喜限りなく。見ざる我が五衰三熱の苦患を救ひ。妙樂微妙の至寶成道の勳具功德の如來なりと偶仰し。龍宮城裡お水晶塔を建て佛舍利を安置朝暮開繞禮拜しまゐらせ。されば釋尊の功德八天上下界まで普く源遠く赤血外り中華日域迄佛法傳り。三寶お皈依し如來の妙法を修しまゐらせ。生老病死の四大苦を脫し。無餘涅槃界お性生しまゐる昔。世々億萬の數をつまびらかに信じ。每々尊むべしと云々

釋迦御一代圖會卷六大尾

大和屋圭藏參考

弘化二年乙巳四月

發兌書林

京都堀川通二條下ル　越後屋治兵衛

江戸日本橋通二丁目　山城屋佐兵衛

大阪心齋橋通博勞町角　河内屋茂兵衛

和漢西洋書籍賣捌處

群玉堂　河内屋　大阪心齋橋博勞町角　岡田茂兵衛